

再処理工場からの汚染をとめるための2つの署名のお願い

六ヶ所再処理工場の本格運転開始の今秋を目前に、私たち消費者団体、生活協同組合、産直団体は、『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」を2007年7月28日に発足させました。

私たちは、六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の本格稼働に反対します。

そのために、次のことに取り組みます。

- 1) 私たちは、放射能汚染による風評被害や実被害を発生させないように行動する決意を表明します。
- 2) 私たちは、自主的に放射能汚染を監視し、自然環境や第一次産業を守り育てることを宣言します。
- 3) 私たちは、生産者と連携し、産地と消費者をつなげ続けていくことを宣言します。
- 4) 私たちは、「六ヶ所再処理工場」による空と海の放射能汚染に反対し、豊かな自然環境と生命と食べ物を守る運動の大きなうねりを、ともに創ることを呼びかけます。

本格稼働を具体的にとめるために、私たちは2つの署名の取り組みを開始しました。

1つは、私たち自身が作成した「これからも安心して食べ続けたい! ~『六ヶ所再処理工場』の本格稼働に反対し、その中止を求める署名」です。

もう1つは、「豊かな自然を放射能で汚さないでください」という岩手県宮古市の重茂漁協が作成した署名です。

重茂漁協のある重茂半島は、入り江とリアス式海岸を併せ持つ豊かな漁場です。同漁協はここで採れた質のよいわかめやこんぶなどを生協や産直団体に送って、多くの消費者から支持されている私たちの生産者です。

この漁協が、「海に放射能を捨てないでください」、「放射能放出測定を行い、きちんと情報公開をしてください」という署名に取り組み始めました。

私たちは、全力でこの2つの署名に取り組みます。

どうぞ、署名にご協力ください。

2007年7月28日

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク

呼びかけ団体 生活協同組合あいコープみやぎ(理事長 吉武洋子)
生活協同組合連合会きらり(会長 奥万里子)
生活協同組合連合会グリーンコープ連合(会長 吉田文子)
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会(会長 加藤好一)
大地を守る会(会長 藤田和芳)
特定非営利活動法人 日本消費者連盟(代表運営委員 富山洋子)

~ 豊かな自然、食べ物、そして生命を守るために ~

私たちが「六ヶ所再処理工場」の本格稼働に反対する理由

青森県六ヶ所村にある「六ヶ所再処理工場」は、日本国内の各原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料から、燃え残りのウランとプルトニウムを取り出す化学工場です。その本格稼働が、今年の11月にも始まるようとしています。

「六ヶ所再処理工場」は、本格稼働時、民生用では世界最大規模となる年間800トンもの使用済み核燃料を処理し、その過程で、大気中や海中に大量の放射能を放出します。放射能は、工場敷地内の排気塔から空に、沖合3km地点までひかれた放水管から海に放出されます。大気中には、クリプトン85(半減期10.76年)、トリチウム(半減期12年)、炭素14(半減期5730年)、ヨウ素129(半減期1570万年)、ヨウ素131(半減期8日)などの放射能が、海中には、トリチウム、ヨウ素129、ヨウ素131など、多種類の放射能を一挙に放出します。

しかも、「原子力発電所が1年間で排出する量」に匹敵する膨大な放射能をたった1日で放出し、それを本格稼働の予定年数とされる40年もの間、放出し続けることとなります。放出された放射能は消えることなく空と海の両方にひろがり、東北地方はもとより東日本全域が、放射能汚染の直接的な脅威と恐怖にさらされます。放射能はプランクトンや魚、植物等によって生体濃縮され、人間が食べ物から摂取した際には数万倍から数100万倍の濃度になると予想され、実際に再処理工場が稼働しているイギリスやフランスでも放射能の海洋汚染が大きな問題になっています。

放射能汚染は、自然環境とあらゆる生物に深刻な打撃を与えます。その脅威と恐怖は現地の人びとだけの問題ではなく、豊かな農畜水産物の恵みをうけてきた私たち全体の問題です。私たちは、放射能汚染という負の遺産を将来に残さず、これからも安心して国産の農産物、畜産物、海産物を食べ続けたいのです。

上記の理由から、私たちは「六ヶ所再処理工場」の本格稼働に反対し、その中止を求めます。

以上